

農技第1549号
令和7年8月4日

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予報第4号を発表します。

令和7年度病虫害発生予報第4号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
水稻	いもち病（穂いもち）	やや少	やや少（葉いもち）
	紋枯病	やや少	やや少
	セジロウンカ	やや少	やや少
	トビイロウンカ	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多
	イネツトムシ	平年並	平年並
	コブノメイガ	平年並	平年並
大豆	紫斑病	平年並	平年並
	べと病	少	少
	ハダニ類	やや多	平年並
	吸実性カメムシ類	やや多	平年並
なし	黒斑病	平年並	平年並
野菜等共通	ヨトウガ	平年並	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	シロイチモジヨトウ	多	やや多
	オオタバコガ	やや多	やや多
	ハイマダラノメイガ	多	多
果樹等共通	果樹カメムシ類	平年並	平年並

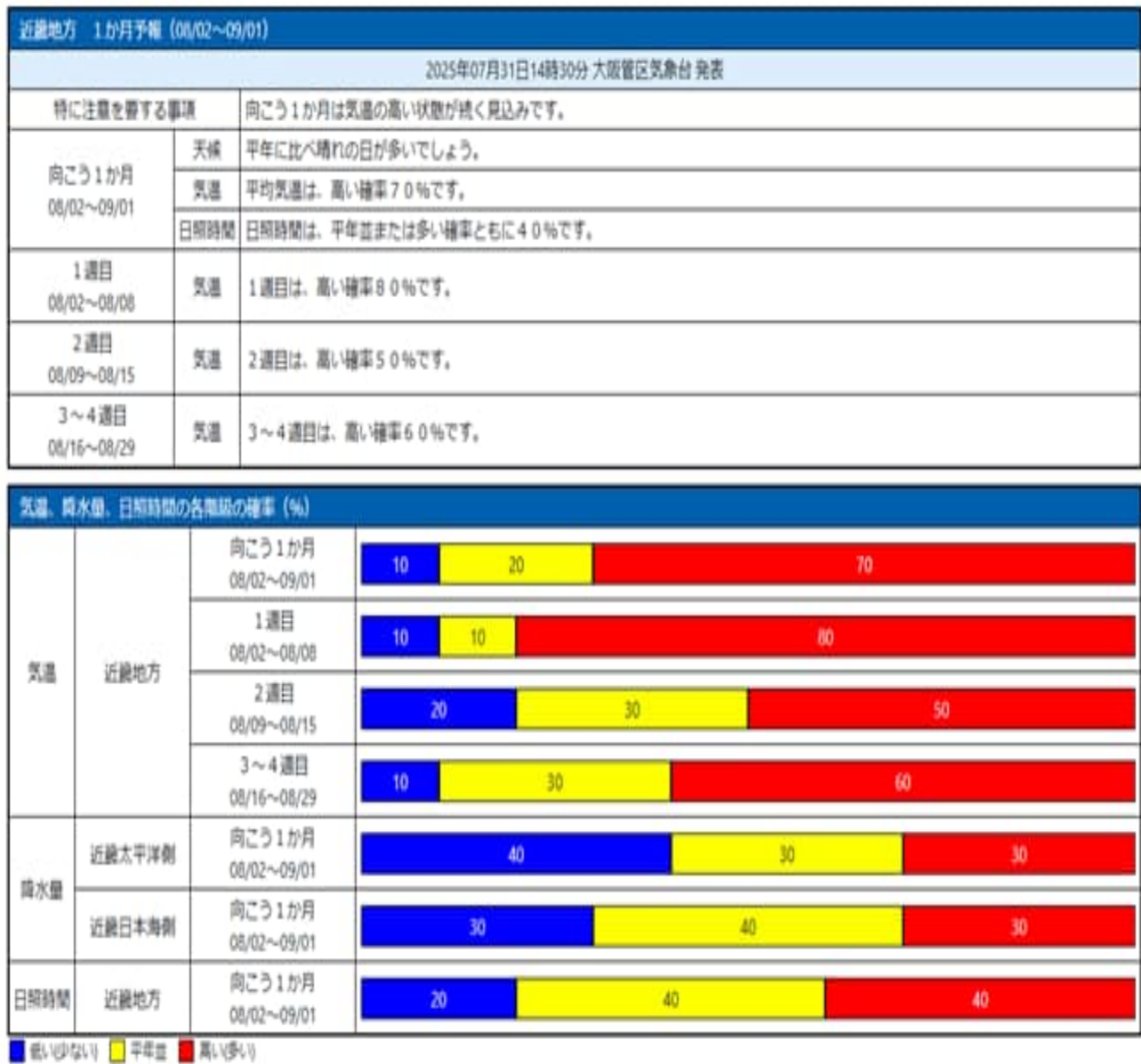
太文字の病虫害：向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

* 気象の概況

近畿地方 1 か月 予報
(8 月 2 日から 9 月 1 日までの天候見通し)

令和 7 年 7 月 3 1 日
大阪管区気象台 発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >



* 発生概況及び防除対策上の留意点

根拠中の記号

- (+) : 発生量を多くする要因
- (-) : 発生量を少なくする要因
- (±) : 発生量が平年並になる要因

水稻

1 【いもち病（穂いもち）】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 葉いもちはやや少 (-)
気象予報 気温は高い (±)
降水量は太平洋側は少ない、日本海側は平年並 (±)

2 【紋枯病】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (-)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は太平洋側は少ない、日本海側は平年並 (±)

3 【セジロウンカ】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (-)
気象予報 気温は高い (+)
その他 生育初期の稲を好み、出穂期以降はあまり増殖しない (-)

4 【トビイロウンカ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず、予察灯への誘殺もなし） (-)
気象予報 気温は高い (+)

5 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)
気象予報 気温は高い (+)

6 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)
気象予報 気温は高い (+)

7 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予想：発生量 やや多
- (2) 根拠：発生現況 やや多、イネカメムシは多、
ミナミアオカメムシは一部多 (+)
気象予報 気温は高い (+)
- (3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに、本虫の発生源にならないようには場周辺（畦畔等）の雑草管理を適正に行う。なお、出穂直前に畦畔の管理作業を行うと本虫を本田内に追い込むことになるため、出穂の2週間以上前に雑草管理作業を行う。

イ 大型斑点米カメムシ類である、イネカメムシとミナミアオカメムシは予察灯への誘殺が多くなっている。イネカメムシについては、周辺より出穂期が早いほ場では、集中して被害を受けやすい。また、そのようなほ場の隣接ほ場では出穂が遅い場合も被害を受けやすいため、適切な防除を行う。さらにイネカメムシは出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させるなど収量への影響が大きいため、ほ場内に発生が見られる場合は薬剤防除を検討する。

ウ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

エ 防除にあたっては、令和7年度病虫害発生予察注意報第1号（令和7年7月17日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1384>）を参考とする。

8 【イネツトムシ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）

9 【コブノメイガ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）

大豆

1 【紫斑病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（－）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は太平洋側は少ない、日本海側は平年並（±）

2 【べと病】

- (1) 予想：発生量 少
- (2) 根拠：発生現況 少（－）
気象予報 気温は高い（－）
降水量は太平洋側は少ない、日本海側は平年並（±）

3 【ハダニ類】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は太平洋側は少ない、日本海側は平年並（±）

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤散布を行う場合は、薬液がハダニ類の生息している葉の裏に十分かかるように行うこと。

イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

4 【吸実性カメムシ類】（ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ等）

（１）予想：発生量 **やや多**

（２）根拠：発生現況 平年並（±）

気象予報 気温は高い（＋）

（３）防除上の留意点

ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、卵からふ化した幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

なし（青なし）

1 【黒斑病】

（１）予想：発生量 平年並

（２）根拠：発生現況 平年並（±）

気象予報 気温は高い（－）

降水量は太平洋側は少ない、日本海側は平年並（±）

（３）その他

ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように留意する。

イ 園地を定期的に見回り、落下した果実・病葉は園外に持ち出し処分する。

ウ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。また、耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野菜等共通

1 【ヨトウガ】

（１）予想：発生量 平年並

（２）根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）

気象予報 気温は高い（＋）

2 【ハスモンヨトウ】

（１）予想：発生量 **やや多**

（２）根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は**やや多**（＋）

気象予報 気温は高い（＋）

（３）防除上の留意点

- ア 本種の幼虫は、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。
- イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。
- ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- エ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

3 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予想：発生量 **多**
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は**やや多**（+）
気象予報 気温は高い（+）
- (3) 防除上の留意点
 - ア 本種の加害植物は、ネギ、キャベツ、ピーマン、ナス、をはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。
 - イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意する。
 - ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。
 - エ 防除についての詳細は令和7年度病虫害発生予察防除情報第6号（令和7年6月20日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1362>）を参考とする。

4 【オオタバコガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は**やや多**（+）
気象予報 気温は高い（+）
- (3) 防除上の留意点
 - ア 本種の加害植物は、ピーマン、ナス、トウモロコシをはじめとする多くの野菜類のほか、花き類など広い範囲に及ぶ。
 - イ 果実や花蕾に穿入した幼虫及び中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
 - ウ 成虫の産卵、飛来防止による防除手法として、防虫ネット、黄色灯、性フェロモン製剤がある。
 - エ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。
 - オ 防除についての詳細は令和7年度病虫害発生予察防除情報第5号（令和7年5月20日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1346>）を参考とする。

5 【ハイマダラノメイガ】

- (1) 予想：発生量 **多**
- (2) 根拠：発生現況 誘致植物*（クレオメ）での発生量は**多**（+）
気象予報 気温は高い（+）
*対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調査するために用いられる。
- (3) 防除上の留意点
 - ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。
 - イ 幼虫が生長点を食害するため、発生を確認してからの防除では手遅れなため、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。
 - ウ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。
 - エ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。
 - オ 防除についての詳細は令和7年度病虫害発生予察注意報第2号（令和7年7月24日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1390>）を参考とする。

果樹等共通

1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 予察灯への誘殺数はやや少、
フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや少（±）
気象予報 気温は高い（+）
その他 チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は発生が少ない年に該当する。

防除上の留意点に記載している内容のほか、兵庫県総合防除計画を参照してください。

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

*BLASTAM情報は以下のURLに掲載

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam>

*病虫害・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/hyogo>

*病虫害・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

*この情報は、兵庫県病虫害防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

「兵庫県病虫害防除所」X(旧Twitter)にて情報発信中。
発生予察情報など病虫害に関する情報をいち早く
提供しますので、フォローお願いします。
Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

